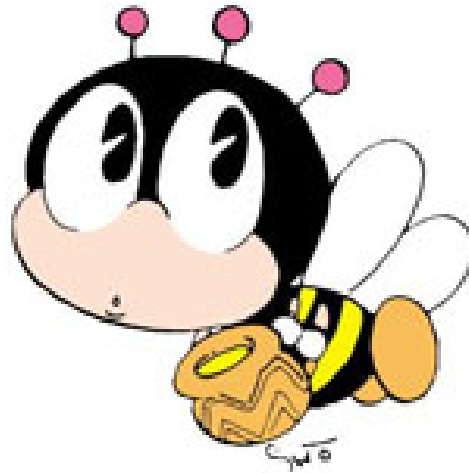


マナビィ



マナビィは、文部科学省の依頼により石ノ森章太郎さんがデザインした生涯学習のマスコットです。1988年11月、千葉県で開催された「第1回全国生涯学習フェスティバル」からマナビィがマスコット及びシンボルマークとして使用されました。現在でも、国・地方自治体等における生涯学習啓発活動にて幅広くマスコットとして採用され、活躍しています。またその名称は文部科学省の月刊誌「マナビィ」にも使用されています。

その名前の由来は生涯学習の【学び】とみつばちの【bee】を合成し、『マナビィ』としました。蜜蜂の触覚は普通は2本ですが、「学」という字の頭に角が3本あるように、学ぶことが大好きな『マナビィ』には触角が3本あります。そして、老若男女だれもがいつでもどこでも楽しく学び活動するといった生涯学習のイメージを浸透させる役割を果たしています。

マナビィが手前に持っている「壺」は、一見ハチミツが入っているようにも見えますが、聖書に出てくる【マナ】という植物の実で、イスラエルの民がエジプトを脱出し、荒野を旅していたときに天から授けて、以後この「マナ」だけを食べて生き延びたと言われている食べ物です。『学び』は人々が生きていくのに欠かせないものだというメッセージを、石ノ森章太郎さんは我々残したのかもしれない。